



説教要旨「新しい王様を求めて」

マタイによる福音書 2章1～12節

イエス様が生まれた時代、ユダヤの支配者はヘロデ大王でした。このヘロデは、エルサレム神殿の大改築を始めとして、たくさんの大型建築プロジェクトを進めた人として、かなり政治家として有能な面もあったと言われています。その反面、このヘロデには、猜疑心にまみれた生臭い暴君といったイメージが付きまといまいます。

ヘロデはユダヤ人社会を支配するにあたって、自分に反抗的な祭司や律法学者も皆殺しにしました。ですからヘロデの周りには、ヘロデの顔色を伺ってばかりのイエスマンしかいないのです。そんな祭司長や律法学者たちは、新しい王が生まれるのは「ベツレヘム」だとヘロデに伝えてしまいました。その結果、どんなに悲惨なことが起こるのかを予想できていたはずなのに、です。そしてこのことによって、「ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた」(2.16) という、幼児虐殺が引き起こされていくのです。

ローマ帝国の武力を背景にした暴君ヘロデに支配されているユダヤ人たち。本来、権力者の暴走を諫めるはずの神殿勢力は、ヘロデに神殿とユダヤの民を売り渡した裏切り者たちに牛耳られています。神様はこんな世の中をなぜ放っておられるのか。神は一体何のためにこの世を作ったのか。この苦しみは一体何のためなのか…。この人間としての権利が、あまりにも踏みにじられていたために、人々は苦しみ悩んだあげく、そのまま失望してあきらめるのではなく、新しい王を求めました。この不条理な世界を変えて欲しい。生きていることが報われる世の中であって欲しい。誰もが安全と豊かさを味わい、生きる喜びを味わい、安心して全てを託して死ねる。そんな世の中になって欲しい、と。

神様を信じることは、現実から目をそらすことではありません。むしろ現実を喜びに変えてゆくための原動力を「どうか神様、与えてください」と求めることです。全ての人の暮らしが少しでも良いものになるように、祈りつつ新しい年へと歩み出して参りましょう。

(2021・12・26 説教者：稲垣真実)